

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	池田 正五
所属機関名	生命科学部生物科学科
職位	教授
在籍年	36 年

教育の責任

生命科学部生物科学科のバイオサイエンスコースに所属し、同学科における「分子遺伝学」関連分野の科目（分子遺伝学、免疫生物学、進化生物学、遺伝子工学、およびバイオサイエンス実験）の教育を担当している。さらに「ゲノム生物学」研究室での学生の卒業研究の指導を行っている。学部長経験者として、教育を含めた学科運営全体への助言を行っている。

教育の理念

生命科学を基盤としたバイオテクノロジーや最新医療技術は、目覚ましい発展を遂げている。これらを理解し実践するためには、基礎生物学の知識と技術を確実に修得することが不可欠である。担当するそれぞれの科目は内容が多岐にわたり難易度も幅広いため、講義では履修年次に合わせた適切な範囲とレベルを明示することで、着実な修学を促したい。基礎科目の学力を身につけることは、応用科目への興味を抱くきっかけにもなるはずである。近年、大学生の自学自習時間の減少が問題となっているが、授業中を含めた日々の積み重ねこそが重要と考える。そのため、毎回の講義中の演習や宿題として行う課題レポートを重視し、それらを十分に加味した成績評価を行う。

教育の方法・方針

方針 1：修得範囲の明示

- ① 学年進行に応じた内容の提供：各科目には多様な学問レベルと範囲が存在するため、確実な理解を促すには、学年進行に適した内容を教授する必要がある。シラバスだけでは網羅しきれない詳細な範囲やレベル（専門用語、生命現象の深度、必須・発展事項の区別など）について、配布プリントを通じて明確に提示する。
- ② 講義内での修得確認：各講義で修得すべき重要事項については、授業後半に演習問題を実施し、その場で理解度を確認させる。

方針 2：講義中および日々の学習習慣の定着

- ① 即時フィードバックによる理解の定着：毎回の演習問題では、解答後すぐに自己採点を行わせる。未解答箇所や誤答箇所をその場で明確にすることで、知識の定着を図る。
- ② アウトプット能力の育成と評価への反映：全 5 回程度の課題レポートを宿題として課し、図表を用いて生命現象を論理的に説明する訓練を行う。上述の演習やレポートの出来具合を最終成績へ十分に反映させ、日々の取り組みを重視した最終評価を行う。

方針 3：実験科目における指導方針

- ① 実験科目では、結果の整理や考察を帰宅後（特にレポート提出締切間際）に先送りさせないよう指導する。実験当日の下校前までに結果を整理し、教員とディスカッションしながら考察の要点をまとめておく習慣を身につけさせる。

教育の成果

- ① 最近の授業アンケートで、7～9 割の学生が目標を達成「できた」または「だいたいできた」であり、9 割以上が教員の熱意を「感じられた」または「少し感じられた」と回答した。また、9 割前後がこの授業に「満足」または「ほぼ満足」と回答した。
- ② 授業アンケートにおける学生からの「授業で配慮してほしい事柄」で、指摘数の多い（1 割を超える）項目はなかった。

③ 授業アンケートでの自由記述で、学生への特別な説明を要するような批判的なものはほとんどなかった。

上記のような授業アンケート結果より、これまでの教育方針や講義内容・レベル、また講義方法や態度が概ね適切であったと判断する。

今後の目標

来年度以降は特任教授となり、教育が主な業務となる。したがって、講義に十分な時間を割ける環境を活かし、より丁寧な教育を心がける。特に、演習やレポートの採点、実験科目での対話やディスカッションを大切にし、平素の学習成果を十分に加味した評価を行えるよう努力する。

根拠資料

- ・シラバス
- ・教材（配付プリント、授業用パワーポイント）
- ・2025 年度までの授業アンケート結果